

【バスト再生医療の目的】

「バスト再生医療」は脂肪幹細胞の特徴を用い、その脂肪幹細胞の培養を行い数千万個の細胞数に増やし、これを吸引した脂肪と同時に乳房へ注入を行う方法です。これによって注入した脂肪の約50%から80%を生着させる治療方法です。

【バスト再生医療の内容】

脂肪幹細胞とは脂肪にくっついていて小さな細胞のことであり、この細胞は主に血管になる働きを持っています。

お腹などにある脂肪は血液から栄養分をもらい生きているので、血管がなければ生きていきません。

元来の脂肪注入法は脂肪吸引を行う際、脂肪に栄養を送る血管を引きはがしてしまいます。つまり取り出した脂肪は血管が付いていない状態の脂肪なのです。この血管が付いていない脂肪をバストに注入しても、脂肪が生きていくために必要な血管がすぐには作れません。

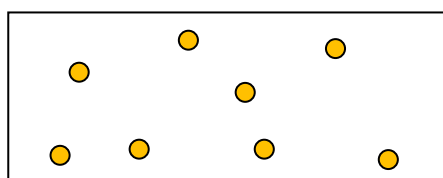
その影響で注入した脂肪が死んでしまい、注入した脂肪の約20%～40%しか生着しなかったのです。バスト再生医療は脂肪が吸収される前に脂肪に栄養を送る血管を再生することを促進させるため、注入したより多くの脂肪が生き残る新しい治療方法です。

① 少量（約20cc）の脂肪と培養に必要な血液（100cc）を採取します。

脂肪の中から脂肪幹細胞を取り出し、約1ヵ月かけて培養を行います。

脂肪⇒  ←脂肪幹細胞

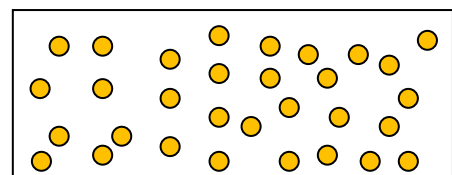
脂肪から脂肪幹細胞を取り出す



1ヵ月間培養する

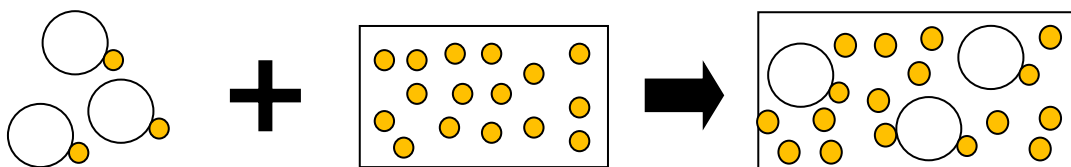


数万～数億個へ増やす



② 培養ができたことを確認したのち、ご自身の気になる脂肪を吸引します。

吸引した脂肪に培養した脂肪幹細胞を加え、バストに注入します。



ご自身の乳房以外の脂肪を吸引し、培養した脂肪幹細胞と合わせて乳房へ注入する